

# ニシキ株式会社と

# 綿パンツの共同開発

7月22日ニシキ株式会社健康事業部の営業担当の方が来苑されインタビューを受けました。



排泄委員  
渡辺 俊



排泄委員  
内海 智



排泄委員  
平橋尚士

## 来苑の目的

駒場苑ではニシキ株式会社の綿パンツを多く取り入れていきます。改良をしてもっと綿パンツを使い心地の良い物にしていきたいということで、現場の声を反映するために、排泄委員会がインタビューを受けました。

株式会社ニシキは大正10年創業のおむつメーカーの老舗です。

主にベビー用品を扱う会社でした。『赤ちゃんのいる生活をもっと楽しく、排泄ケアのある環境をもっと優しく、愛情を科学するニシキです』をキャッチコピーにしています。

紙おむつ全盛の時代、「蒸れる」「ゴミが多い」といった不満が多く聞かれたそうです。老舗おむつメーカーの威信をかけて、これら不満を解決できる商品はないかと、ニシキと素材メーカーとプロジェクトを立ち上げたのが綿パンツ開発の始まりです。

完成までには様々な試行錯誤がありました。施設で使用されているご利用者や、現場スタッフの意見を反映して、改良を重ねながら、機能・装着性・デザイン性にこだわり、たくさんのご利用者に支持されるようになりました。

開発者として嬉しい誤算があったそうです。その誤算は「心のケア」にも効果があったことだそうです。ご利用者から「表情が明るくなった」「自分でトイレに行くようになった」など、心の変化も見られるといった声が聞かれるようになったそうです。

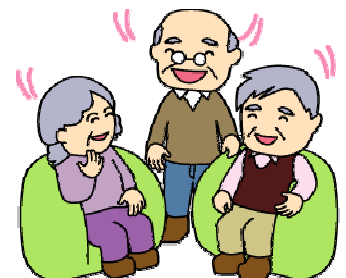
更なる進化を遂げた綿パンツの商品開発をするという目的のために、多くのユーザーがいる駒場苑が選ばれました。



## 排泄委員会とは？

排泄委員会は駒場苑が掲げる7つのゼロの、おむつゼロ、下剤・安定剤ゼロを推進する役目を担っています。おむつゼロへ向けての取り組みとして、ご利用者に綿パンツを使用して過ごして頂くようにしています。

現場では「当たり前の生活」の維持継続に力を入れています。「当たり前の生活」とは何でしょうか？



「当たり前の生活」とは、朝日と共に目が覚めます。ご飯を食べながら、今日は久しぶりに友人と会って何を話そうかなと考えます。外出する前にトイレを済ませます。あれを着て行こうかと服を選びます。外で友達と会って話をして楽しい時間を過ごします。家に帰り家族と今日はこんなことがあったと話します。ゆっくりとお風呂につかりながら今日一日を振り返ったりします。今日も一日お疲れ様でしたと、夜になると眠ります。誰もが経験している日常の一風景です。「当たり前」過ぎて目の前を通過してしまう、

ありふれたかけがえのない時間です。

一般的に、入所されるとこの「当たり前の生活」の継続が難しくなっていきます。

施設に入所されるお年寄りは、自分で望んで入所される方は一人もいません。年を取って身体が弱くなったから、ご家族が面倒をみられなくなったから、様々な理由と経緯で施設に入所されます。施設に入れば、施設の生活だから、仕方なくお風呂は機械を使います。トイレに行けないからおむつを使います。そんな施設の生活だから、仕方ないからという理由で「当たり前」の生活を手放してきた現実をたくさん見てきました。「当たり前の生活」を手放した先には、自我の崩壊、認知症の進行、ご家族のやるせない思い。目を背けたくなる現実の数々が積み重なっているだけでした。

駒場苑ではご利用者の「当たり前の生活」の維持・継続を最優先させて、その方の生活歴にこだわっています。

そして、生活を妨げる問題を解決するために、7つの問題をゼロにするため、現場の業務に活かすことができるように、委員会の仕組みがあります。

排泄委員会はおむつを使用しないで、綿パンツで過ごして頂くことと並行して、その方にあった排泄の仕方や下剤を使用しないで、センナ茶やプルーンを使用して自然排便を促す方法の検討や、安定剤を服用されている方の薬の減量や無くし方を医務と協力して行っています。

### 綿パンツの共同開発

株式会社ニシキの綿パンツはとても優れた製品です。前開きで使用しやすく、生地もしっかりしています。開発担当の方は、更により良い製品の開発を希望されています。現場の皆さまの意見を是非お聞かせ下さいということで、7月22日に来苑されました。



駒場苑でも排泄委員会で事前に職員にヒヤリングをして、使用してみてもっと改善できることがあるかを聞きました。

改善点として出てきたのは

- ① ジックテープのギャザーのテープが鋭利でご利用者の皮膚を傷つけやすい
- ② マジックテープのギャザーが劣化しやすい
- ③ コストが高いため量が買えない
- ④ ゴムがきついのもっと伸縮性のあるものにして欲しい
- ⑤ 色のバリエーションを増やして欲しい
- ⑥ 薄手の生地のものがあっても良いのでは？ と要望を出しました。

開発担当の方は、丁寧に一つ一つの課題を検証して下さいました。

- ①の問題ではボタンでとめるようなものが良いのではと現場から提案をしました。
- ②ではマジックテープの強度を強めると、ご利用者の皮膚を傷つけるリスクがあると問題意識を持っていました。
- ③しっかりとした製品を作るには日本製が一番だということです。以前はコストダウンのため、中国の工場に発注をしたそうですが、なかなか要望に適った製品はできなかったため、質にこだわり抜いた結果日本製にしたそうです。一枚 1500~2000 円の値段設定に出来ないかをお願いしました。
- ④いろいろなサイズがありますが、身につける方によっては伸縮性がないと感じるかもしれないとのことと課題として持ち帰りました。
- ⑤新しく男性用の綿パンツも開発されて色のバリエーションも今後増えていく予定です。
- ⑥薄手でしっかりした物が出来るように今後開発に繋げていくそうです。

### インタビューを終えて

今回のインタビューで感じたことは、強さと弱さは表裏一体であり、その矛盾を超えてこそ、進化や成長があることを学びました。例えば、生地を薄手にすると耐久性は落ちたり、マジックテープの強度を強めれば、鋭利になりすぎたり、質にこだわればコストは増えていく。製品開発はこの矛盾を一つずつクリアしていくことで、製品開発の現場の皆さまの熱量を直に感じられるとても貴重な体験でした。本当にありがとうございました！

いろいろな方の熱意に福祉の業界は支えられているのだと、改めて感じる事が出来ました。今後、排泄委員会も現場での課題に更に真摯に取り組んでいきます。